

大切な人をワクチン被害から守るための

説得の仕方

木原功仁哉法律事務所

弁護士 木原功仁哉

家族、友人、職場の同僚などが「ワクチンを打つ」と言った場合、説得を試みることによってワクチン被害を防ぐことに繋がります。その説得の仕方についてご紹介します。

1 ワクチンのデメリットに関する資料を「それとなく」見せる

ワクチンを打とうとする人に対して「ワクチンは危険」などと自分の意見を押し付けると、逆に抵抗感を持たれてしまい、うまく説得できません。

このような場合、ワクチンのデメリットに関する資料を「それとなく」見せてあげましょう。例えば、家族であればリビングの机などに、次のような資料（特に読んでほしい部分には赤線でマークをしたもの）を置いて興味を持たせてあげましょう。友人・同僚なら手渡しのほかメールでもよいと思います。

- 弊所 HP で掲載されている諸資料（木原くんにや通信、「ポリソルベート 80 とは？」など）
- 柳澤厚生・日本オーソモレキュラー医学会代表理事 FACEBOOK の 7 月 26 日意見表明
<https://www.facebook.com/yanagisawa.atsuo>
- 週刊誌に掲載されているワクチン被害に関する記事
- 芸能人のワクチン副作用に関する SNS 記事

資料を見せる際、中立的な立場から働きかけてみましょう。例えば、「ファイザー・モデルナのワクチンに含まれている LNP で知ってる？（と言って、木原くんにや通信第 1 号を渡す）」「ポリソルベート 80 って知ってる？」と申し向けることにより、相手方に抵抗感を持たせることなく、耳を傾けてくれることが期待できます。

また、ワクチンの危険性を「理屈」で説明するよりも、実際の被害例を挙げて「感情」に訴えてみましょう。

2 質問攻めにする

マスメディアの偏頗的な情報を信じているためにワクチンを打とうとする人には、自分の頭でワクチンの危険性について考える機会を持たせることが必要です。

例えば、「なぜ、打とうと思ったの？」「なぜ、その情報が正しいと思ったの？」「その情報は、自分で調べたの？」「今回のワクチンは遺伝子組換え薬品であることを知ってる？」など、さまざまな質問を投げかけてみてください。それによって、相手方が自分の体に注射しようとする薬品がどのようなものか、自分で調べようとするきっかけになるはずです。

なお、ワクチンの危険性についてこちら側が質問を受けても、答える必要はありません。なぜなら、mRNA ワクチン（ファイザー・モデルナ）が本格的に実用に供されるのは今回が初めてであり、それに懐疑的に考えるのは当然のことであって、ワクチンの危険性を一々説明する必要などないからです。

3 ワクチン被害に罹る可能性と正面から向き合わせる

厚労省の 8 月 4 日の審議会資料によると、すでにワクチン副作用疑いのある死者が 919 人に達しています（実際にはもっと多いと思われます。）。これを「極めて稀」（厚労省）と評価するかどうかは別として、死亡したり重篤な症状が現れることは間違いないのですから、ワクチンを打とうとする人に、万が一のことを真剣に考えてもらう必要があります。

具体的には、何かあった場合の引継ぎメモ（究極的には遺言書）の作成を求めてみてはどうでしょうか。その際、日頃と違う真剣な様子で伝えてみてください。相手方も真剣に考えてくれるきっかけになるはずです。

相手方の健康を真心から心配していれば、耳を傾けてくれるのではないのでしょうか